



○ 労山基金運営委員会

○ 労山山岳事故対策基金規定

改定6項目

○ 改定6項目
 さる2月19日～20日に行われた第35期定期総会において「労山山岳事故対策基金規定改定」は、可決された。改定内容は、6項目以下のとおり。1. 救助捜索交付の増額改訂、2. 入通院日数の短縮改善、3. 海外登山トレッキング山行以外の具体的な規定および交付対象者の明確化、4. 文章表現の明瞭化と簡潔化、5. 無事故報奨金制度の廃止、6. 本規定の改定日および施行日…2022年2月20日の総会で改定、会員への周知期間を設け2022年4月1日施行とした。この中の無事故報奨金制度は2014年4月1日から実施されてきたが、これまで全国会議で、「公平な評価ではない」などと指摘されてきた。委員会として制度の廃止を提案し、アンケートを実施した結果、廃止に賛成する意見が多く、本年3月末をもって廃止となった。私は、無事故報奨金制度発足から2年目にこの制度に携わり、

無事故の会・クラブを抽出する作業にあたってきたが、本年をもって解任となった。総会や評議会で表彰式が終わったときが、私の心の中で、一番ほっとする時である。本年の無事故報奨金は、136団体573960円と例年どおりである。

(武笠真次／労山基金運営委員)

○ 組織部

○ 登山研究集会の日程決まる!!

○ 組織部
 全国連盟は、今期全国登山研究集会を行う。組織部はこの集会の事務方の任を担う。従って集会の実施・成功が、組織部会活動の中で大きな比重を占める最大の取り組みとなると考えている。登山研究集会の期日は2022年10月29日(土)～30日(日)、場所は東京コンチネンタルホテル府中、募集人員は100名である。各地方連盟及び、会員の皆さんに広く参加を呼びかけ、会員相互の交流を深める場になりたいと考えている。今期の組織部会も前期同様、部員とよく議論・討議し、内容を積み

上げて皆で実行し、振り返りをしていく、計画―実行―反省の繰り返しを進めていきたいと考えている。どうぞよろしくお願いいたします。

最後に昨年各地方連盟のご協力のもと、組織部全員で取り組んだ「組織拡大のための部会アンケート調査結果報告」が出来、総会で配布させて頂いた。ぜひ各会でも活用して頂きたい。

(組織部長／久保典子)

○ 山筋ゴーゴー体操推進委員会

新メンバーとともに

頑張ります!!

3月25日(木)に第1回委員会が開催された。山筋ゴーゴー体操推進委員会は事務局に所属している。今期全国の事務局はメンバーや役職が変わったので、それに伴い委員会に携わっていただいた事務局員の役割も実務担当のみと変わった。

総会で決定された活動方針は①山筋ゴーゴー体操の全会員への普及 ②サポーター養成講座の普

及・サポーターの普及 ③インストクター制度の確立・推進 ④山筋Tシャツ、山筋冊子の普及販売とDVDの活用である。

最初の議題は、山筋ゴー体操講習会申し込み時やそれ以後のチラシ制作等についてで、文書、チラシ等のサンプルをHPにUPしたら地方連盟はより取り組み易くなるのではないかと話し、即、資料作成に着手することになり、活気に満ちた会議であった。これからも総会方針の具現化を目指し、委員一同、地方連盟に寄り添い、会員に喜ばれるような活動をしていきたいと、心ひとつにして会議を終了した。

(山筋ゴー体操委員長／久保典子)

○遭難対策部

死亡事故が2件発生

2月3日から3月2日までに届いた事故一報は14件15名。死亡事故が2件発生した。東京(男性)南アルプス・荒川出会アイスクレイミングで滑落。兵庫(男性)大山北壁冬季登攀疲労凍死。6名が

滑落。2名が転落。1名が墜落。3名が転倒。2名が凍傷。1名が立木衝突。1名が疲労凍死。男性8名。女性7名。所属連盟は、東京5名、千葉兵庫2名、道央・新潟・広島・愛媛・福岡・宮崎が各1名。70代1名、60代2名、50代5名、40代5名、30代1名、20代1名。登山形態では、無雪期2名、積雪期2名、山スキー2名、冬季登攀3名、氷瀑1名、人工壁3名、沢登り1名。

昨年の1・2月と比較して何が変化しているのか(次頁の表参照)。事故者数・男女数では大きな差は無い。年齢では、前年は半数以上が60代、今年は20代から80代まで広がり特定の年代に集中していない。山行形態では、前年は無雪期が半数近くあり、山スキーも多かった。今年は無雪期が増加し、特に登攀系が増加した。事故原因は、前年転倒が半数以上だった。今年も登攀系の事故が多かった。また、前年は無かった凍傷が今年5名と急増している。

今年に入り、幅広い年代で活発に登山活動している状況が見えている。前年の1・2月は、コロナ禍の影響を大きく受け登山者が積極的な山行を自重していたが、今年に入り積雪期登山や登攀系の登山を活発に行う傾向が著名に表れている。

今後、この傾向が継続すると春山での事故や登攀での事故の増加が心配される。登山者自身の体力や技術を十分に認識し、天候や体調の判断を早めに行い登山の中止や無理をせず引き返す判断をお願いしたい。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。